



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

歴史資料館へ資料の寄贈がありました

歴史資料館では歴史資料の収集、保管、調査を行っています。

小城市の文化財の保護、活用のため貴重な歴史資料の寄贈を受け入れています。

小城市にお住いの中溝嘉津子様より中溝様の

ご家族が出征した時の資料（御守、たすき、慰問袋他）など貴重なものを寄贈していただきました。

これらは小城の戦時資料として受け入れて保護、保存していきます。



◀「慰問袋」は、出征兵士を慰めるために、中に日用品、衣服、食料品、薬品、写真、お守り札などを入れて送った袋です。



◀「千人針」は、一枚の布に1,000人の女性が糸を縫い付けたお守りのこと。虎は「千里を行き、千里を帰る」との言い伝えにあやかり、出征兵士の生還を祈ったものです。

おぎの歴史探検隊

くましる 神代家と芦刈町（島原の乱）〈その2〉

くましる つねちか 神代常親の家臣に石隈 一郎 左衛門という侍がいました。塩田町に育ち、鹿島の徳島信盛（芦刈町出身）に仕えて朝鮮出兵にも従軍。その後、江戸に出て柳生新陰流の柳生宗矩に仕え武芸を磨きました。帰国して神代家に仕えて芦刈に屋敷をかまえ、石隈流という武術をひらきました。島原の乱で幕府軍が苦戦するなか出征し、二の丸に放火して全焼失陥させたおかげで翌日には城は陥落しました。この大功で、かの知恵伊豆（松平信綱）に認められ、神代家の銃軽卒から佐嘉本藩の直参二百石に大抜擢され異例の出世をしました。石隈は塩田八天神社に関係が深く、この神社は当時八天夢想流（忍者関連で近年注目されています）という修験の武術のメッカであり、石隈は元々はここで修行していたと思われます。

さて、隆慶一郎の「死ぬことと見つけたり」では本藩家老として神代直長が登場していますが、この直長は本藩から神代家への婿養子となって神代家を継ぎました。しかし、婿入り時の条件を本藩が破ったため、多くの神代家臣が芦刈の天満宮に集まって血判状をかわし騒擾を起こしました。川久保邑に本拠を移したのはこの直長の代のころです。（終）

小城郷土史研究会/著



▲神代家の殿様が花見をした「車返しの桜」

❖開館時間 9時～17時 ❖休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課（桜城館2階） 担当 下川・永田 ☎71・1132